

## 植物介在療法学詳論 (2単位)

担当者氏名 浅野房世、藤岡真実

## ◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

生物介在療法における植物を介在させた療法の詳細を学ぶ。植物介在療法とは、単に患者が植物を育てる行為を呼ぶのではなく、患者が生きようとする姿勢を確保、もしくは維持するために、植物のあらゆる形態を活用することである。したがって、精神疾患・心理的障害、疾病を受容できない患者など、あらゆる患者が対象になるといっても過言ではない。本講義では、とくにその対象として、幼児・児童をあげ、被虐待や、発達障害のある対象者への具体的な植物介在療法をまなぶこれらを学ぶことによって、植物介在療法（園芸療法）の、プログラムが立案できるようになり、かつその評価が可能になることが目標となる。

## ◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

発達心理

発達障害

虐待

## ◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	ガイダンス	本講義での、予習すべき書籍の説明と評価	
2	発達心理と植物介在療法	フロイト論理の特徴、ユング理論	発達心理関連の書籍を読み、問題意識を持つ
3	発達心理と植物介在療法	エリクソン、ポールビーを理解する	
4	発達心理と植物機材療法	「人間の発達」を理解する	
5	小児の植物介在療法(1)	小児医療現場に必要な理論	
6	小児の植物介在療法(2)	発達心理を踏まえ、植物介在療法の意義問題点	近年に増加傾向のある注意欠陥障害など社会現象と子どもの関係をよむ
7	小児の植物介在療法(3)	小児内科(悪性腫瘍)と植物介在療法のプログラム	
8	小児における植物介在療法の実際(1)	プログラムの評価	
9	小児における植物介在療法の実際(2)	患児の内的変化をどうとらえるか	
8	小児における植物介在療法の実際(3)	身体障害児の植物介在療法の禁忌	非虐待の親子に関連する書籍をよむ
9	小児における植物介在療法の実際(4)	被虐待児への禁忌	
10	身体障害、虐待のケア(1)	事例を想定しプログラムの立案	
11	身体障害、虐待のケア(2)	問題点の焦点化	
12	身体障害、虐待のケア(3)	発表	
13	評価(1)	発表	
14	評価(2)	総括 子どもについて	
15	総括	総括 子どもと植物	

## ◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)

生きられる癒しの風景 浅野房世 人文書院

## ◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)

---

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

レポート

---

◆オフィスアワー

水曜日 12 時から 13 時 （ただし、メールにて確認が望ましい）

---

◆その他受講上の注意事項

（オフィスアワー※： ）

ゆっくり面談を希望する場合は、会議などがあるため、メールにて事前に確認が望ましい

---